

日本応用数学会誌『応用数理』執筆要項

日本応用数学会 学会誌編集部 *

(2022年3月改訂)

原稿

- 『応用数理』に掲載される記事の原稿は、原則として文章作成ソフト (L^AT_EX, Word, テキストデータなど) で作成してください。もし文章作成ソフトの利用が難しく、手書き原稿しか用意できない場合には、学会誌編集部 oyosuri@ml.jsiam.org までお問い合わせください。個別に対応させていただきます。なお執筆依頼メールにあるように、『応用数理』の原稿用 L^AT_EX テンプレートファイルは以下に置いています。

https://drive.google.com/drive/folders/1ZnWRHFiGpVVuFe5tLr_JbISaZsHwVrTX?usp=sharing

こちらのファイルを適宜ご利用ください。また、Word のテンプレートは用意しておりません。Word で原稿を作成される場合は、字数にのみ注意してください。

- 頂いた原稿は、印刷会社が専用ソフトウェアを用いて組版を行います。したがって、上記 L^AT_EX サンプルファイルを使用しても、生成された PDF ファイルなどがそのまま印刷に用いられるわけではありません。
- 上記ファイルは応用数理が定める厳格なものではなく一つのサンプルです。文字や図に対して極端にレイアウトを変えない限りは、著者自身の使用する環境に合わせて本スタイルを変更して頂いても結構です。UTF8 と Shift.JIS のサンプルを同梱していますが、文字コードも作者自身で自由に変更してください。
- 原稿の体裁については、『応用数理』のバックナンバーを参考にしてください。(ただし執筆要項は 2022 年 4 月以降で改訂されていますので、文献表の書き方はこの要項に従ってください。) 以下の URL から無料で閲覧できます。(あるいは「応用数理 J-Stage」を検索してください。)

J-Stage: <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/bjsiam/-char/ja/>

本文・図表

- 用語、文字、字体について：常用漢字、現代かなづかいを用い、平易な口語（である調）で記述してください。数学記号は明瞭に表記し、式番号は行の最右端に置いてください。
- 地名、人名について：地名、人名は可能な限り原綴で表記してください。初出の人名は姓名ともに表記してください。ただし英文の場合、名はイニシャルだけでも構いません。
- 図（写真を含む）、表について：原稿はすべて白黒で印刷されます。図、写真および表も白黒で印刷されます。
- 脚注について：脚注の多用や長文の脚注は避けてください。

* 原稿執筆・投稿に関する事柄は学会誌編集部 oyosuri@ml.jsiam.org にお問い合わせください。応用数学会事務局にお問い合わせを頂いてもお答えしかねます。

文献表

BibTeX の jplain 形式に従い、以下の指示に従って作成してください。BibTeX のサンプルファイルは L^AT_EX サンプルファイルに同梱してあります。

1. 文献表は原則として著者のアルファベット順としそれに番号を振る。

(例) [1] J. M. Burgers.

[2] R. Courant, K. Friedrichs, and H. Lewy.

[3] 近藤次郎.

2. 本文中で文献を引用するときは、その箇所に文献番号を示す。

(例) ... であるとされている [10].

3. 連名の著者によるものは、原則として全員の姓名を記す。英文表記の場合には、最後の著者の前に and を置く。

4. 誌名などは可能な限り省略しないで正式名称を書く。

5. 各項目の順序、姓・名の表記法、句読法、Capitalization など具体的な記載方法は以下の記載例にならう。

- (a) 雑誌論文の場合：

著者名. 標題. 掲載雑誌, Vol. 巻, (号 [省略可],) pp. 開始ページ-終了ページ, 年.

(例)

[1] R. Courant, K. Friedrichs, and H. Lewy. On the partial difference equations of mathematical physics. *IBM Journal of Research and Development*, Vol. 11, pp. 215-234, 1967.

- (b) 会議録論文または論文集の場合：

著者名. 標題. In 会議録名または論文集名 (編者名など), pp. 開始ページ-終了ページ. 発行所, 発行地, 年.

(例)

[1] J. M. Burgers. A mathematical model illustrating the theory of turbulence. In *Advances in Applied Mechanics* (edited by R. von Mises and Th. von Kármán), pp. 171-199. Academic Press, Inc., New York, N. Y., 1948.

[2] 小柳義夫. スーパーコンピューティング. 先端技術と数理科学の対話 (森正武・藤井宏編, 数学セミナー増刊), pp. 121-135. 日本評論社, 東京, 1990.

- (c) 著書・編書の場合：

著者・編者. 書名. 発行所, 発行地, 年.

(例)

[1] 近藤次郎. 数学モデル—現象の数式化—. 丸善, 東京, 1976.

[2] V. Volterra. *Leçons sur la théorie mathématique de la lutte pour la vie*. Gauthier-Villars, Paris, 1931.